



フアチマの聖母

ポルトガルの首都リスボンから北に百十。母マリアが出現すると、余りにあるフアチマはオリブの木が点在する無名の小さな村だったが、そこに住む三人が訪れる聖地となった。



聖母マリアの出現を自撃した3人の子ども―右がルチア

フランスの片田舎のルルドで、貧しい少女ベルナデッタに聖母マリアが出現したのは一八五八年。それから五十九年後の一八一七年、再びフアチマに出現されたのである。

第一次世界大戦中の一九一七年五月十三日に九歳のフランシスコ、七歳のヤシント、従姉妹の十歳のルチアが聖母マリアを自撃した。

カシの木の上に毎月十三日に六回出現され、ロザリオの祈りを唱え、罪を悔い改めるように繰り返し説かれた。

最後の出現の十月十三日には、うわさを聞いて集まった七万人が祈り、見守る中で、聖母マリアは三人の子どもにだけ聞こえるように三つの予言をした。一つ目は、第一次世

界大戦の聖母マリア出現の地に終結。二つ目は三人の子どものうち二人は間もなく天国を訪れること。三つ目は一般には明らかになされなかった。

聖母マリアの予言通り、世界大戦は終結し、目撃した三人の子どものうちフランシスコとヤシントが亡くなる。



出現されたところにはたたくさんの人が巡礼に訪れるようになり、一九三〇年にフアチマは聖地として正式に認められた。

三つ目の予言は生き残ったルチアが教皇にだけ伝え、秘密にされていたが、二〇〇〇年に、それは一九八一年の教皇暗殺未遂事件に関するものだったことが明らかにされた。

一人生き残ったルチアは修道女になり、二〇〇五年、九十七歳で亡くなった。科学万能の現代社会において、聖母マリア

今、聖母マリアが出現されたところには聖堂が建てられ、出現を目撃した子どもの墓がある。

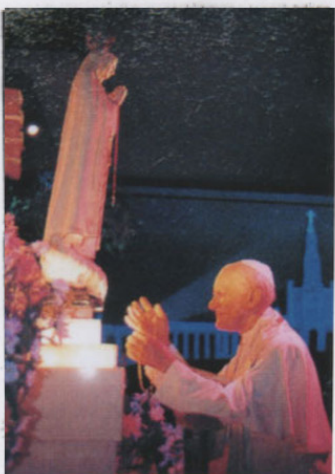
もともとカトリック教会では、キリストの母であるマリアに対する信仰が強い。紀元四三一年、トルコのエフェソで開かれた公会議で、聖母マリアには「神の母」という称号が与えられ、マリアに捧げられた教会もたくさんある。

中世には熱心に唱えられていたロザリオの祈りやお告げの祈りはカトリック国のフランスやポルトガルでも、現代では余り祈られなくなつた。

一九八一年に起こったヨハネ・パウロ二世の暗殺未遂事件は五月十三日、聖母マリアが最初に出現した日、五月十三日と不思議にも一致している。

ヨハネ・パウロ二世は回復後の一九八二年五月十三日、フアチマを訪れ、ご加護に感謝された。

聖母マリアの出現は祈りを忘れた現代社会への警鐘なのだろうか。（元山口放送取締役ラジオ局長）



「フアチマの聖母マリアとヨハネ・パウロ二世」のろう人形